

せき 堰のようす

湯川村は、県内でもおいしいお米が多くとれる米どころです。

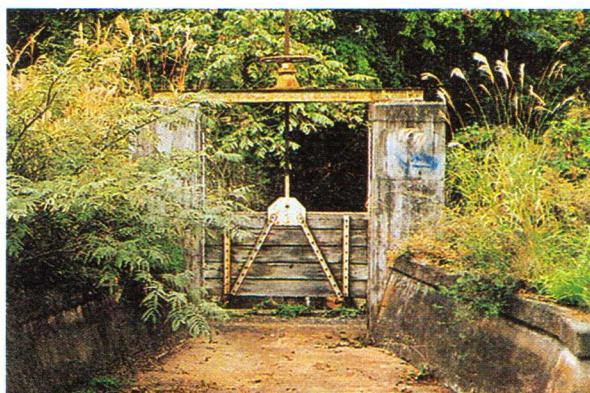
これは、稻に必要な水を確保するために、祖先の努力によって堰が作られ、守り続けられてきたためです。

勝常地区では、いくつかの堰により用水を確保しています。その中でも一番古い河沼堰は、中世末期天文5年(1536年)に、阿賀川(大川)より取水しています。その後、会津若松市の高久地内から水を引きました。この堰は、佐野堰といいます。このほかにも小野田堰や弘化堰などがあり、約530ヘクタールの水田をうるおしています。

笈川地区でもいくつかの堰から用水を確保しています。そのうち、戸の口堰^{※1}は元禄6年(1693年)に猪苗代湖から取水する工事が行われました。その後、堰の幅を拡張する工事が3年かかって行われ、のべ5万5千人もの人々が働きました。戊辰戦争^{※2}の時、白虎隊が自刃したことでも有名な飯盛山の山腹にある洞門も、この工事によりできたものです。また、天和2年(1682年)に、日橋川から取水する高瀬堰が完成しました。この堰により約250ヘクタールの田に水を引くことができました。

※1 戸の口堰……猪苗代湖西岸の船着き場の近くにある。

※2 戊辰戦争……新政府と旧幕府の戦争。干支の戊(つちのえ)と、辰(たつ)から戦争の名がつけられた。(1868年1月～1869年5月)



河 沼 堰



高 濑 堰